■ ジェンダーセンターの歩み

明治大学は早くから女性にも弁護士などへの道を開くべく、社会科学の基礎を学ぶ機会を提供しようと1929年に法科と商科からなる専門部女子部を開校し、出身者からは日本初の女性弁護士や裁判官などの法曹人を輩出してきました。戦後は短期大学に改め、良妻賢母教育とは一線を画した女性の社会進出の基盤を支える役割を果たしてきましたが、女子の大学進学の門戸が広がってきたため、2004年3月にその幕を閉じました。

こうした遺産を尊重し、さらにこれからの時代のジェンダー問題の追究と男女共同参画社会の進展を目指して、2010年4月に情報コミュニケーション学部にジェンダーセンターを開設しました。以来、関係者の努力により着々と成果を挙げ、活動の幅を広げてきています。

■ 研究プロジェクト（抜粋）

- 女性専門職の過去，現在，未来
- 組織におけるダイバーシティー推進とその課題
- 戦後の女性誌がライフスタイルに及ぼした影響
- メディアにおける男性身体・女性身体のセクシュアル化
- 現代フランスと日本のメディア言説によって構築された規範としてのカップル像の自己/相互表象

ジェンダーセンターは、社会的、文化的に形成された性をめぐるイメージや役割である「ジェンダー」の問題を中心に、さらに多様な生き方を実現する社会の理想としての「ダイバーシティ」と、私たちの「私らしさ」を築き上げるために重要な要素である「社会的承認」を手がかりに、研究・教育活動を行っています。

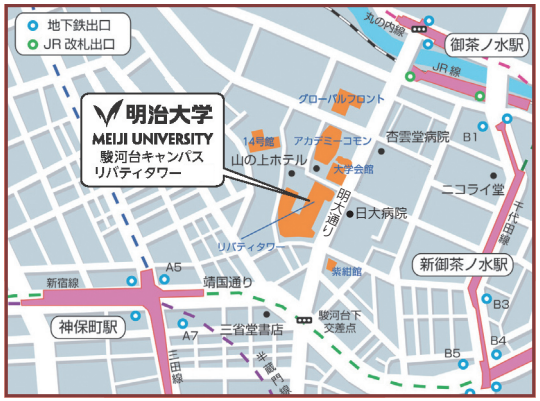
■ 私たちが目指すもの

グローバル化・情報化が進んだ現在、国家の内外で政治や経済だけでなく組織や社会のあり方も大きく変化しました。ジェンダーの視点からも、性差による社会的な役割分担や様々な抑圧や不平等を直視し、すべての人々が平和で幸福な社会を築くことが差し迫った課題となっています。また、差異に富む文化的背景を持つ個人や集団の共生社会の実現が必要でしょう。このためには、従来の学問分野の枠を超えた柔軟な学際的視点から、情報コミュニケーション学部の未来志向的な姿勢をジェンダー研究・教育・社会連携活動の中に活かし、多様性を承認する社会を実現します。

明治大学情報コミュニケーション学部
ジェンダーセンター

〒101-8301　東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学駿河台キャンパスリバティタワー
情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター

E-mail：gender@meiji.ac.jp
Twitter：Meiji_gender
http://www.meiji.ac.jp/infocom/gender/



Gender Center

明治大学情報コミュニケーション学部
ジェンダーセンター

Gender
ジェンダー

Diversity
ダイバーシティ

Recognition
承 認

ジェンダーセンターが取り上げる３つの領域と問題群

ジェンダー（Gender）

ジェンダーとは、生物学的性（生まれながらの性）とは異なる、社会的、文化的に決められた性のあり方をさします。性という現象を包括的に考えるためには、現代ではさらにセクシャリティ（性的欲求）とセクシャル・アイデンティティ（性自認）に配慮することが求められています。

- ワーク・ライフ・バランスと、日本の労働の「常識」
- ジェンダートラックの現在ーケア労働、管理職、教育
- メディア空間におけるファッションとジェンダー
- ジェンダーはいかに振る舞いに影響を及ぼすのか？
- カワイイ(Kawaii)とジェンダーの文化論的考察
- ポピュラーカルチャーにおけるジェンダー構築とその受容
- ジェンダーは摂食障害とどのような関わりを持つのだろう？
- サブカルチャーとセクシャリティーーオタクと二次元
- ナショナル/トランスナショナルなメディア空間におけるジェンダー規範
- 身体のステレオタイプ（セクシーな女性、たくましい男性）

承認（Recognition）

承認とは、私たちが他者を共有された規範にしたがって判断し、肯定的に受け入れることを意味します。感情的に結ばれた他者として、平等で自由な社会のメンバーとして、同じ価値共同体に含まれる人物として、あるいは諸活動において一定の成果能力を持つ人物として、現代社会で承認のあり方は質的に分化しています。

- 社会的に承認されることとは？
- 貧困の連鎖を断ち切るためにはなにが必要か？（子供の貧困）
- ブラック企業とやりがい搾取のなにがいけないの？
- 家事労働はいかに承認されるべきか？
- 労働における「私たち」（連帯）と成果評価
- 「見た目」の持つ社会的な権力
- 障がい者はどのように社会参加できるの？
- ＬＧＢＴとして生きること

共生社会実現への試み

ダイバーシティ（Diversity）

ダイバーシティ（多様性）は、私たちがこの社会において互いに支え合い、共生していくための重要な条件であるととらえられます。セクシャリティ、障害、文化、宗教、思想など、私たちのあいだに存在する壁をいかに越えることができるかが、現代の民主主義社会の成熟の試金石であると言えます。

- 障がい×ジェンダー＝？
- 多様な家族の可能性ーー核家族・ステップファミリー・ひとり親家庭
- 属性にとらわれず多様な人々との共生を実現する社会とは？
- 共に生きることーーシェアハウス、コーポラティブハウス、グループハウス
- 差別と排除のない社会・組織はどのようにすれば可能か？

■ これまでのイベント（抜粋）

- 開設記念シンポジウム「労働と承認ージェンダーから見た社会的正義ー」(2010.03)
- 定例研究会「ワークライフバランス、女性の活躍推進と日本経済の活性化」（2012.07）
- 定例研究会「国際比較のなかの結婚と女性労働」（2013.10）
- 特別講演会「ジェンダーの脱植民地化を目指して―世界規模で考える男性性、女性性、ジェンダー関係」（2014.07）
- 学際的シンポジウム「社会・文化の多様性のレンズを通しての知の構築」（タイ・シーナカリンウィロート大学開催ジェンダーフォーラム）（2014.11）
- 定例研究会「日本における子どもと子ども像の歴史　―江戸時代を中心として―」（2015.04）
- 定例研究会「『おたく』とジェンダー」（2015.06）
- 明治大学国際シンポジウム「学術分野の男女共同参画と多様性」（2015.11）
- 「MEIJI ALLY WEEK ～明治大学にLGBT支援者であるAllyを増やす一週間～」（2015.12）
- 定例研究会「摂食障害からの回復　―臨床社会学の観点から」（2016.05）
- ドキュメンタリー映画「ちづる」上映会（2016.06）
- 映画「ハンズ・オブ・ラヴ 手のひらの勇気」上映会＆トーク（2016.11）
- 定例研究会「メインストリーム文化とLGBT」（2016.11）

開設シンポジウム「労働と承認」

定例研究会「国際比較のなかの結婚と女性労働」

学際的シンポジウム
（ジェンダーフォーラム・タイ）

定例研究会「摂食障害からの回復」

Gender Gradation Fashion Show
(MEIJI ALLY WEEK)